

「大阪公立大学ビジョン 2030 ～ 大阪公立大学の将来構想 ～」

バージョン 1

2023 年 1 月

はじめに・ビジョン策定の背景

2022 年 4 月、大阪市立大学・大阪府立大学の統合により、12 の学部・学域、15 の研究科を擁する国内最大規模の総合公立大学、「大阪公立大学」が誕生いたしました。大阪市立大学、大阪府立大学はそれぞれ、1880 年の「大阪商業講習所」、1883 年の「獣医学講習所」にまでその源流を遡ることができ、統合と改組を繰り返しながら、理論と実践の有機的連結を重んじる大学として、近代大阪の発展の歴史とともに、その歩みを進めてまいりました。総合大学同士の統合は我が国において前例のない、歴史上初の挑戦となります。両大学がこれまで培ってきた歴史と伝統を踏襲し、大阪公立大学憲章に掲げた理念や目標を実現すべく、大阪をはじめ我が国全体の発展を牽引する「知の拠点」として、両大学がもつ強みを結集し、高度な融合研究を展開することで、現代社会・地域社会が抱える様々な課題に応えられるよう、取り組んでまいります。

これからの大学には、地域に貢献できるからこそグローバルに通用する、世界で認められるからこそ地域から信頼される、そしてそこには産官民が集まり発展する、という好循環・エコシステムを生み出していく「場」としての機能が求められています。大阪公立大学が産学官民共創で今後進める「イノベーションアカデミー事業¹⁾」は、その中心となるものです。多様で幅広い学問領域の連携を活用した「総合知²⁾」で新しい価値を生み出し、産業界・政府・自治体と緊密に連携しながら社会課題の解決に取り組むとともに、我が国の将来を担う優秀な人材の輩出を目指します。

一方、我が国のアカデミアは 2004 年の国立大学法人化以来の大きな変革期を迎えようとしています。中央教育審議会が 2018 年に発出した答申「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」においては、2040 年の高等教育の目指すべき姿として、社会人や留学生等の多様な学生の積極的受け入れ、学位プログラム中心の大学制度のもと、学修者の学修成果を中心とした質保証システムへの転換などが挙げられています。一方、海外トップレベル大学は独自基金（エンダウメント）を造成・運用することで財政的自律を高め、挑戦的研究や若手人材への戦略的な投資を行うことで飛躍的に研究力を高め、新たな価値創造・イノベーション中核拠点としての地位を確固たるものにしてきました。このような状況に鑑み、我が国の

大学の研究基盤を財政・制度の両面から抜本的に強化することを目指して、10兆円規模の大学ファンドⁱⁱⁱが創設され、その運用益を活用して、諸外国のトップ大学に伍するポテンシャルを有する大学（国際卓越研究大学）への支援と、優秀な博士課程学生への幅広くかつ安定的な支援が進められようとしています。さらに、我が国には様々な機能を担う多様な大学が存在し、そのすべてが我が国の知の基盤として重要な役割を担っていることに鑑み、この多様性を強みとして活かすため、地域の中核大学や特定分野の強みを持つ大学の機能を強化し、成長の駆動力へと転換することで我が国の産業力強化やグローバル課題解決にも貢献するような大学の機能を強化する支援策をまとめた「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ^{iv}」の整備が進められています。

このような状況の中、個々の大学は、自らの役割、使命（ミッション）を明確化し、それに基づいて時代や社会からの要請に柔軟に応えられる独自性の高い教育研究の推進、および社会貢献活動を果たしていくことがこれまで以上に望まれています。大阪公立大学については、「新大学基本構想^v」（令和2年7月改訂）において、教育・研究・社会貢献という3つの基本機能のさらなる強化と、2つの新機能（都市シンクタンク機能、技術インキュベーション機能）および4つの戦略領域（スマートシティ、パブリックヘルス／スマートエイジング、バイオエンジニアリング、データマネジメント）への重点的取り組み、および国際力強化により、大阪の都市課題の解決や産業力強化など、大阪の発展への貢献を目指すことを決めました。これを実現するために取るべきアクションプランとして、第1期中期計画^{vi}（2019年4月～2025年3月）を変更しましたが、その後の国内外の動向を踏まえ、第2期中期計画期間においては、時代や社会の要請に柔軟に応えられる教育研究組織への再編・最適化を進めるとともに、大阪という地域の知の拠点となるのみならず、グローバルに発展する高度研究型大学を目標とすべく、2030年の本学のあるべき姿としてこのたび大阪公立大学ビジョン2030を取りまとめました。

大阪公立大学ビジョン2030の概要

大阪公立大学ビジョン2030は、世界の中で我が国のアカデミアが置かれている現状を踏まえ、大阪という都市／地域に根差した大学として、本学がその役割、ミッションを果たしていく上で、今後取り組んでいくべき事項についてまとめたものです。

国内最大規模の総合公立大学としての強み・独自性を踏まえた上で、2030年における大阪公立大学のあるべき姿（4つのビジョン）を提示し、そこからバックキャストしてビジョンを実現するための中長期戦略（20の重要戦略）を立て、各戦略を推進するための具体的なアクションプラン（51の具体的取り組み）を整理しています。

本ビジョンの基本的な考え方は、高い専門性に加えて国際的かつ分野横断的な視点を涵養する「教育」、卓越した学術研究の推進と総合知を活用した新たな社会的価値の創出を目指

す「研究」、大阪という大都市に根差した大規模大学として、多様なステークホルダーとの連携の中でイノベーション・エコシステム^{vii}を構築する「社会貢献」、そして上記3つのビジョンを支える基盤となる「大学運営」体制を革新することにあります。

ビジョン:4	重要戦略:20	具体的取り組み:51
<p>1. 教育</p> <p>高い専門性に加え、幅広い教養と物事を相対化して捉える視野、および他者の視点に立てる能力を育む教育を通して、地域課題はもとより地球規模課題の解決を先導するグローバルリーダー人材を育成します</p>	<p>①質の高い多様な学修・教育の可視化・質保証</p> <p>②先進的オンライン教育の推進とパラダイム横断型人材・DX人材の育成</p> <p>③社会共創を実現するイノベーション人材の育成</p> <p>④国際共同教育プログラムの構築と世界に開かれたキャンパスの実現</p> <p>⑤インクルーシブな環境と包括的學生支援の実現</p>	<p>1. 学修成果の可視化と教育の質保証</p> <p>2. 学生が自立的・能動的に学修し多様な他者と学び合える「場」の提供</p> <p>3. アドミッションポリシーに合致した学生確保のための入学者選抜制度の質保証</p> <p>4. オンラインを駆使した先進的教育的構築</p> <p>5. グローバル教育拠点形成のための支援</p> <p>6. 学士課程・大学院課程におけるパラダイム横断教育による分野融合・国際化の促進</p> <p>7. 実践的データサイエンス教育によるDX人材の育成</p> <p>8. TEC(Technology-based Entrepreneurship Course)カリキュラムの全学展開による社会共創イノベーション人材の育成</p> <p>9. 博士課程・博士後期課程学生が研究に専念できる環境の整備</p> <p>10. 国際ボランティアプログラムや異文化理解プログラムによる、学びを世界とつなぐグローバル人材の育成</p> <p>11. 世界の学生を惹きつける国際教育・短期教育プログラムの開発</p> <p>12. キャンパスの国際化の推進と留学生支援体制の充実</p> <p>13. アクセシビリティセンターの強化と人権教育の推進による「誰一人取り残さない学生支援体制」の確立</p> <p>14. 学生の人間力向上のための包括的支援体制の確立</p>
<p>2. 研究</p> <p>多様な学問領域群を包含した大学として、卓越した学術研究の推進と、総合知の活用による新たな社会的価値の創出を通して世界の知的競争をリードします</p>	<p>⑥卓越した研究活動の推進と研究拠点の構築、および総合知の活用による新たな価値創造への挑戦</p> <p>⑦国際共同研究・国際頭脳循環の推進</p> <p>⑧将来を担う若手研究者・女性研究者の育成・支援</p> <p>⑨多様で卓越した研究環境基盤の整備</p>	<p>15. 基礎研究の振興、および総合知を活用した新たな社会価値創造への挑戦</p> <p>16. 世界トップレベル研究拠点構築に向けた重点支援の推進</p> <p>17. 国際研究ネットワークの拡充を通じた国際共同研究の促進</p> <p>18. 次代を担う優秀な若手研究者の育成と次世代研究シーズに対する包括支援</p> <p>19. 女性研究者支援事業とIRIS(女子大学院生チーム)活動の推進</p> <p>20. データ駆動型研究環境の整備による外部資金獲得の強化</p> <p>21. 先端的研究基盤の共用促進による研究環境整備</p> <p>22. 学術研究・産学官民共創研究の支援体制の強化</p>
<p>3. 社会貢献</p> <p>大阪の精神文化の中心たる大学として、生涯教育の拠点となるとともに、多様なステークホルダーとの</p>	<p>⑩イノベーションアカデミー事業の推進による産学官民共創の展開</p> <p>⑪スタートアップ・エコシステム構築に向けた次世代アントレプレナーの育成</p>	<p>23. イノベーションアカデミー事業の推進による産学官民共創の展開</p> <p>24. スタートアップ創出支援による創業環境の充実</p> <p>25. 国際的なアントレプレナーシップ拠点構築</p>

<p>連携のもとイノベーション・エコシステムを創出し、地域課題および地球規模課題の解決と未来社会の創造に貢献します</p>	<p>⑫医・獣・工連携の推進や創薬科学を基盤としたライフイノベーションへの貢献</p>	<p>26. 医・獣・工連携によるライフイノベーションへの貢献 27. 異分野融合型創薬研究リーダーの育成</p>
	<p>⑬未来社会の創生とスマート社会の実現による都市課題の解決と地域住民の Well-Being への貢献</p>	<p>28. 都市シンクタンク機能による未来社会の創生と地域連携強化によるスマート社会実現への貢献 29. 生涯学習や次代の人材育成の中心拠点としての「場」の提供、およびライフステージごとの学びの充実</p>
	<p>⑭知の還元・共有・継承のための図書館・博物館・歴史記録事業の展開</p>	<p>30. 総合知を支える基礎的な資料の提供と、知の還元・共有の場としての図書館機能の強化 31. 地域住民の生涯学習拠点および次世代への知の継承のための大学博物館構想の推進 32. 大阪公立大学歴史記録保存事業の推進</p>
	<p>⑮全学的 ESD(Education for Sustainable Development)の展開による SDGs への貢献</p>	<p>33. ESG マネジメント体制の確立と全学的 ESD(Education for Sustainable Development)の深化 34. ボランティアリーダー人材育成 35. カーボンニュートラル実現に向けた推進体制の強化 36. Beyond SDGs戦略の発信</p>
<p>4. 大学運営 卓越した教育研究および社会貢献を通じた特色ある活動推進の基盤として、大学運営体制を革新します</p>	<p>⑯教職員の意欲と能力を引き出す人事マネジメントシステムの構築とダイバーシティの実現</p>	<p>37. 教職員の意欲と能力を引き出す人事マネジメントシステムの構築 38. 多様性に配慮した人材育成組織としてのダイバーシティの実現 39. 海外ネットワークの強化と外国人教職員の積極採用、およびキャンパスの国際化に向けた事務支援体制の整備</p>
	<p>⑰社会とともに成長する大学の実現に向けた財源多様化の促進</p>	<p>40. 大学の成長を力強く支える財務戦略の策定 41. 卒業生ネットワークの強化と新たな大学サポーターの開拓 42. 社会からの共感に基づく新たな資金獲得の仕組みの導入 43. 社会人の学び直しを含む正課・正課外教育のパッケージ化とオープンバッジへの対応</p>
	<p>⑱全学的 DX の推進と大学 IR に基づく大胆な業務改革の展開</p>	<p>44. 大学 IR に基づく学内リソースの戦略的投資 45. 全学的デジタル化による教育研究活動の抜本的改革 46. 全学的 DX 推進による戦略的教育研究活動の推進</p>
	<p>⑲高度研究型大学としての国際的プレゼンス確立</p>	<p>47. 大学のレピュテーション強化に向けた戦略的広報活動の展開 48. 世界大学ランキング 200 位に値する教育・研究・社会貢献・大学運営の実現</p>
	<p>⑳強靱で公正な組織運営体制の構築</p>	<p>49. 平常時・緊急時の危機管理システムの構築 50. 公正かつ健全な学術研究活動のための組織的基盤整備 51. 森之宮キャンパスを中心としたキャンパスマネジメント</p>

ビジョン1 教育

高い専門性に加え、幅広い教養と物事を相対化して捉える視野、および他者の視点に立てる能力を育む教育を通して、地域課題はもとより地球規模課題の解決を先導するグローバルリーダー人材を育成します

2030年のあるべき大学の姿

学生が自らの探究心に基づき、多様な学問分野において自由で柔軟に学べる環境と、多様な学生同士・他者との学び合いの「場」が提供されているだけでなく、大学を中心とした強固な国際ネットワークが確立されており、世界に開かれた大学からイノベーションマインドとスキルを保持した高度研究人材が輩出されている

重要戦略①

質の高い多様な学修・教育の実現と可視化・質保証

具体的取り組み

1. 学修成果の可視化と教育の質保証

学修成果を可視化するための指標を構築し活用することで、学生の多様な学修の質を保証します。また、学生・教員の学修・教育の特性や学修成果に応じた多様な教育改善の展開を進め、教育の質の向上を図ります。さらに、教育補助者育成プログラムや教育支援システムの整備など教育環境の充実を図ることで、質の高い教育を実現します。加えて、専門分野別の第三者評価を活用し、教育プログラムごとの質を保証します。

2. 学生が自律的・能動的に学修し多様な他者と学び合える「場」の提供

多様な学生の自律的で能動的な学修を促進するために、学修支援体制の充実、自学自習教材開発等の課外での自律的学修支援に向けた取り組みを推進します。複数あるキャンパスや距離・時間を越えた学び合いを実現するために、オンラインを活用した効果的な教育方法の開発等によって、多様な専門性をもつ学生間および国内外の学外者等との学び合いの機会や「場」を提供します。

3. アドミッションポリシーに合致した学生確保のための入学者選抜制度の質保証

大学のアドミッションポリシーに合致した学生確保に向けて、アドミッションセンターを中心に、高校の新指導要領の反映、入試結果や成績等の分析による点検・評価を行います。また、多面的・総合的評価による選抜方法の検討、海外での現地入試により、社会人や留学生など多様な学生を受け入れる体制を整えます。特に、入試広報においては、外国人留学生や社会人学生の確保に向けた広報を推進します。

重要戦略②

先進的オンライン教育の推進とパラダイム横断型人材・DX人材の育成

具体的取り組み

4. オンラインを駆使した先進的教育の構築

ポストコロナにおけるオンライン教育と対面教育のベストミックスについて研究し具体化するとともに、COIL（Collaborative Online International Learning）型授業を活用し、国内外の大学と共同して最先端の国際教育プログラムの開発を進めます。

5. グローバル教育拠点形成のための支援

学生の留学・海外派遣に対する経済的支援等を充実するとともに、COIL型授業を中心にオンラインも活用した海外大学短期研修／派遣プログラムを拡充します。また、英語で受講できる科目のみで修了・卒業が可能なコースの充実や海外学生の招聘プログラムの充実、受け入れ体制の強化を通じた学士課程・大学院課程における留学生の増加により、キャンパスの国際化の強化を図ります。

6. 学士課程・大学院課程におけるパラダイム横断教育^{viii}による分野融合・国際化の促進

学士課程教育においては、幅広い総合的知識および専門知に基づいて問題を発見し、評価し、解決するための基本的な能力を養うための基幹教育・専門教育を行います。また、初年次ゼミナールをはじめとする基幹教育科目・専門科目へのCOIL型授業導入を進めるとともに、新たに開設を目指す高年次ゼミナールにおいて、異なる文化・分野の学士課程学生・大学院生・留学生の、分野や国籍を越えた知的交流を促進することで、確固たる専門分野を土台として、他分野の知識も柔軟に取り入れ、他者の視点に立って課題解決に取り組むことができる人材を育成します。大学院教育においては、高度な専門性に加えて、総合知を活用した学理の探究力・実践力を育むとともに、社会課題学修に取り組むなど、コースワークの一層の充実を図ります。

7. 実践的データサイエンス教育によるDX人材の育成

数理・データサイエンス・AI教育プログラムを、実社会でデータサイエンスを課題解決に活用できる能力を身につけるプログラムとして全学に提供し、リテラシーレベルではなく活用できる能力を身につけた学生を輩出します。また、大学が自治体及び企業との協働により実施する社会課題解決を目指した実践的学修を通じて、DX人材の育成・輩出を進めます。

重要戦略③

社会共創を実現するイノベーション人材の育成

具体的取り組み

8. TEC(Technology-based Entrepreneurship Course)カリキュラムの全学展開による社会共創イノベーション人材の育成

TEC カリキュラム^{ix}の全学展開、Fledge プログラム^xを推進するとともに、共創の場を利用した人材育成モデル・モデルキャリアプランを策定し、基礎研究・社会実装^{xi}研究と人材育成をシームレスにつなぐことで、産学官連携の場を活用し、イノベーション人材を輩出します。

9. 博士課程・博士後期課程学生が研究に専念できる環境の整備

文部科学省等が実施する博士課程・博士後期課程学生への多様な支援プログラムも活用し、学生が経済的な不安を持たずに研究に専念できる環境を構築し、博士課程・博士後期課程修了者数の増加を図ります。併せて、移転可能スキル（トランスファラブルスキル）の獲得に向けたプログラムを恒常的に実施し、修了後の多様なキャリアパスを開拓することで、優秀な博士人材の社会への輩出を促進します。

10. 国際ボランティアプログラムや異文化理解プログラムによる、学びを世界とつなぐグローバル人材の育成

海外大学とのアントレプレナー育成連携プログラム、国際ボランティアプログラムや国際SDGs 演習プログラム、異文化理解プログラムを通じて、国内外における高度人材育成を進めるとともに、自らの学びを世界とつなぐことができるグローバル人材の育成を行います。

重要戦略④

国際共同教育プログラムの構築と世界に開かれたキャンパスの実現

具体的取り組み

11. 世界の学生を惹きつける国際教育・短期教育プログラムの開発

海外大学向けオンラインプログラム、交換留学プログラム、招聘交流プログラム、研究者交流支援、および夏休み期間を活用した短期教育プログラムの整備を進めます。

12. キャンパスの国際化の推進と留学生支援体制の充実

留学生への支援の充実を図るとともに、ポータルコンテンツの英語化、学内案内への英語表示併記、学内文書のバイリンガル化を推進することで、留学生にとって障壁のないキャンパスを実現します。

重要戦略⑤

インクルーシブな環境と包括的學生支援の実現

具体的取り組み

13. アクセシビリティセンターの強化と人権教育の推進による「誰一人取り残さない学生支援体制」の確立

アクセシビリティセンターの体制強化を進め、障がいのある学生への配慮、留学生や SOGI（性的指向・性自認）への配慮等、多様な学生への支援のための取り組みを推進します。さらには、副専攻、人権教育の全学実施等を通じて幅広い教養、想像力、創造力ならびに高い倫理観を身につけ、物事に柔軟に対応し、多様性への配慮ができる学生を育成します。また、このような活動に自律的に取り組む学生を支援します。

14. 学生の人間力^{xii}向上のための包括的支援体制の確立

ボランティア活動推進拠点の拡充、学生が参画する環境マネジメント組織、キャリア支援や課外活動支援等の体制の整備を通じて、学生が正課外において実践的に幅広い知識・スキル・マインドを身につけるための体制を確立し、自立した一人の人間として社会で力強く生きていくための総合的な力を向上させるために必要なプログラムを提供します。

ビジョン2 研究

多様な学問領域群を包含した大学として、卓越した学術研究の推進と、総合知の活用による新たな社会的価値の創出を通して世界の知的競争をリードします

2030年のあるべき大学の姿

基礎研究・社会実装研究と人材育成がシームレスにつながる中、多様な研究者が充実した研究環境の中で自らを成長させながら卓越した研究に従事し、世界に先駆けた新研究領域の開拓や世界最高水準の研究拠点が形成され、国際的な高度研究型大学としての地位が確立されている

重要戦略⑥

卓越した研究活動の推進と研究拠点の構築、および総合知の活用による新たな価値創造への挑戦

具体的取り組み

15. 基礎研究の振興、および総合知を活用した新たな社会的価値創造への挑戦

多様な学問領域を生み出す源となる基礎研究を推進するとともに、先端的应用研究のより一層の強化を図ります。また、異分野融合研究の促進による世界に先駆けた新領域研究や、人文・社会科学分野と自然科学分野の連携体制を強化し、総合知の活用による Society 5.0 具現化に向けた研究を推進します。

16. 世界トップレベル研究拠点構築に向けた重点支援の推進

研究 IR 機能を強化し、大学の研究力の抜本的強化に向けた支援戦略の策定と研究分野（各研究科）毎の目標設定を行います。また、世界トップレベル拠点となり得る研究分野の選定と重点的支援を推進し、卓越した研究分野のさらなる発展を通じて、大阪のみならず世界規模の課題解決に資する世界トップレベル研究を推進します。

重要戦略⑦

国際共同研究・国際頭脳循環の推進

具体的取り組み

17. 国際研究ネットワークの拡充を通じた国際共同研究の促進

国際共同研究・国際会議開催への支援の充実や、海外大学との協定に基づく交換留学、優秀な若手を含む研究者招聘促進を通じて国際共同研究ネットワークの抜本的強化を行い、国際共著論文の質・量の増加を図ります。

重要戦略⑧

将来を担う若手研究者・女性研究者の育成・支援

具体的取り組み

18. 次代を担う優秀な若手研究者の育成と次世代研究シーズに対する包括支援

優秀な若手研究者の獲得・育成のための支援パッケージの策定を行い、次世代研究シーズ育成を推進することで、大学の未来を担う若手研究者の育成と増大、国際的リーダー人材の輩出を図ります。

19. 女性研究者支援事業と IRIS(女子大学院生チーム)活動の推進

女性研究者が能力を十分に発揮できるよう、教育研究環境整備やキャリアアップ支援を行います。また、女性教員の割合を増やし、それによる社会イノベーションの創出を図れるような多様性ある研究者組織の構築に努めます。理系女子大学院生で組織された IRISSMによる小中高校生への科学の魅力を伝える事業やキャリア教育を通して、女子大学院生の教育力やマネジメント力を高め、社会において多様なキャリアパスにつながるよう支援します。

重要戦略⑨

多様で卓越した研究環境基盤の整備

具体的取り組み

20. データ駆動型研究環境の整備による外部資金獲得の強化

データ駆動型研究を戦略的に推進し、強みのある研究群を育成し、産学官民が共創した社会実装実験等のオープンイノベーションを進めることで、大型競争的研究費や寄附獲得の増加を図ります。

21. 先端的研究基盤の共用促進による研究環境整備

大型研究機器や施設の維持管理等に係る研究者の負担軽減や、効率的な運用システムの構築などにより機器の共用を促進し、研究者が研究に専念できる環境を整備します。

22. 学術研究・産学官民共創研究の支援体制の強化

研究者が卓越した研究を推進するため、URA などの研究支援人材の専門性を高めるなど、学術研究・産学官民共創研究の支援体制を強化します。また、研究成果を社会実装するために必要不可欠な知財戦略を策定し、専門人材の配置など知財マネジメント・技術移転部門の強化を図り、将来的には、技術移転部門の外部化を検討します。

ビジョン3 社会貢献

大阪の精神文化の中心たる大学として、生涯学習の拠点となるとともに、多様なステークホルダーとの連携のもとイノベーション・エコシステムを創出し、地域課題および地球規模課題の解決と未来社会の創造に貢献します

2030年のあるべき大学の姿

大学が多様な学びの機会を提供し、若者から高齢者までが当たり前で大学に集い学び直す環境が実現しているとともに、イノベーションアカデミー事業に基づく産学官民共創の推進によりイノベーションを創出し、大学がSDGs・地域住民の well-being^{xiv}への貢献と地球規模での未来社会デザインの中心拠点となっている

重要戦略⑩

イノベーションアカデミー事業の推進による産学官民共創の展開

具体的取り組み

23. イノベーションアカデミー事業の推進による産学官民共創の展開

産学官民が課題を共有し、共創してプロジェクトをデザインするとともに、社会実装を通じた新しい価値創造を推進する「場」の構築に向けたイノベーションアカデミー事業を全学的に推進し、産学官民共創の促進、大学の知の社会・地域産業との接続を通して、大学が地域のイノベーション・エコシステムの中心となることを目指します。この事業を通じて、産業界・アカデミア・地域行政など様々な主体を巻き込みながら新しい価値を創出し、その社会実装を推進する活動を展開します。本事業で構築される場を活用して、課題やビジョンを共有する企業との組織対組織の包括連携に基づく産学連携を推進します。特に、森之宮キャンパスにおいてはスマートキャンパスを実現するため、キャンパス自体をリビングラボとしてモデル実装や社会実装実験を行います。

重要戦略⑪

スタートアップ・エコシステム構築に向けた次世代アントレプレナーの育成

具体的取り組み

24. スタートアップ創出支援による創業環境の充実

インキュベーション施設や自治体による支援組織との連携を通じた支援人材とのマッチング強化や施設確保、金融機関やベンチャーキャピタルとの連携による資金調達促進など、スタートアップに対する支援を強化して、ソーシャルベンチャー^{xv}とTECベンチャー^{xvi}が継続的に創出される環境を整備し、スタートアップ・エコシステム^{xvii}の構築を目指します。

25. 国際的なアントレプレナーシップ拠点構築

初等教育から大学院・社会人までのアントレプレナー（起業家）教育のパッケージデザインを検討するとともに、起業家間のネットワークを強化するための連携プログラムを実施します。さらに、国際的なアントレプレナーシップ拠点の形成を目指して、グローバル市場で社会実装ができる研究者の育成を海外大学等と連携実施します。

重要戦略⑫

医・獣・工連携の推進や創薬科学を基盤としたライフイノベーションへの貢献

具体的取り組み

26. 医・獣・工連携によるライフイノベーションへの貢献

医工連携を通じて、指導者・連携教員育成、研究者間・高専を含む学生間交流を進めるとともに、獣医学部も含めた連携プログラムへの発展に向けた検討を進めます。また、医工連携におけるシーズ／ニーズの発掘を行うとともに、医療安全プログラム、医獣間・医療関係部門間などで連携を進めます。

27. 異分野融合型創薬研究リーダーの育成

農・工・理・獣医・医の連携を強化し、創薬科学副専攻の教育プログラムをさらに充実させるとともに、大学院創薬科学研究科の創設に向けた検討を進めます。創薬科学研究科においては、グローバルな製薬企業で活躍できる異分野融合型創薬研究リーダー及び起業家精神を有する創薬研究者の輩出を目指して、製薬企業との連携とアントレプレナーシップ教育を推進します。

重要戦略⑬

未来社会の創生とスマート社会の実現による都市課題の解決と地域住民の Well-Being への貢献

具体的取り組み

28. 都市シンクタンク機能^{xviii}による未来社会の創生と地域連携強化によるスマート社会実現への貢献

地域課題の解決や地域住民の Well-Being に資する理論・実践研究を地域との連携のもとに社会実装するためのリビングラボを設置し、大学の専門知・総合知を総動員して、多様な関係者とビジョンを共有しながら課題を解決し、地域の文化・社会・経済資本の発展への寄与と未来社会の実現を目指します。そこで得た知見を、全国・世界へと対象を拡大して適用し、地域レベルから世界規模まで、幅広い社会課題の解決に貢献します。

29. 生涯学習や次代の人材育成の中心拠点としての「場」の提供、およびライフステージごとの学びの充実

生涯学習の中心拠点としての I-site なんば、梅田サテライト（文化交流センター）、森之宮キャンパスの有効活用とともに、図書館等の学内施設との連携強化を図ります。ライフステージごとの多様な学びを提供し、初等中等教育を含む若者から高齢者までが知の森である大学に集い、学び直し、そこで得た学びを再び地域へと還元する好循環の実現を目指します。また、学生が企画・運営する講座などこれまでにはない講座を検討し、より広く地域との関係を深めます。

重要戦略⑭

知の還元・共有・継承のための図書館・博物館・歴史記録事業の展開

具体的取り組み

30. 総合知を支える基礎的な資料の提供と、知の還元・共有の場としての図書館機能の強化
総合知を支える基礎的な力（読む力・書く力・考える力）の充実のためには、多くの資料が必要不可欠であり、その基礎的な資料を保有し、知の共有・還元を行う場として、図書館機能の充実を図ります。また、原資料の保存、研究活動に即した支援と知の生産への貢献、電子ジャーナルの充実、上方学芸（文学と芸能）資料を使った教育・研究・公開講座など、従前の機能のさらなる強化を目指します。

31. 地域住民の生涯学習拠点および次世代への知の継承のための大学博物館構想の推進

地域住民の生涯学習拠点として、保存と学びが共存した場の提供、展示等を通じた教育研究普及活動を推進する場としての博物館構想の具体化を行います。全学における学術資料・学術標本を用いた実証的教育を、博物館において実施するとともに、総合知による成果の結実について実物を通して知る機会を提供することによる、異文化交流を含む新たな知の創造を目指します。

32. 大阪公立大学歴史記録保存事業の推進

大阪市立大学・大阪府立大学の歴史と伝統を受け継いで設立された、大阪公立大学の大学史に関して、大阪公立大学のアイデンティティーの形成とともに、大学とともにある都市・大阪の研究の充実のために、必要かつ不可欠な資料について記録・保存する事業を推進します。現下の大学史資料室における、博物館・文書館としての機能拡充・展開を図り、建学記念事業実施のための企画・検討を行います。

重要戦略⑮

全学的 ESD(Education for Sustainable Development)の展開による SDGs への貢献

具体的取り組み

33. ESG^{xix}マネジメント体制の確立と全学的ESD(Education for Sustainable Development)の深化

大学として優先するSDGsを設定し、ESGマネジメント体制を確立することにより、SDGsを通じた高いレベルの社会貢献の実現を目指します。また、全学共通PBL(Project Based Learning)科目の設置などを行うことにより、全学的ESDを深化させます。

34. ボランティアリーダー人材育成

学生のみならず、一般市民も参加できるボランティアリーダー育成プログラムを展開することにより、SDGsに対する高い意識を有する多くのボランティアリーダー人材を社会に輩出します。

35. カーボンニュートラル実現に向けた推進体制の強化

各キャンパスのゼロカーボン化に向けた取組、イノベーションアカデミー事業における産学官民連携などを進めることにより、カーボンニュートラル実現に向けた推進体制を強化します。

36. Beyond SDGs 戦略の発信

本学のSDGsに関する貢献を総括するとともに、総合知を活かしたBeyond SDGs戦略について検討し、世界に向けた発信を目指します。

ビジョン4 大学運営

卓越した教育研究および社会貢献を通じた特色ある活動推進の基盤として、大学運営体制を革新します

2030年のあるべき大学の姿

開かれた大学として、多様なステークホルダーとの対話に基づいて大学運営の革新が行われるとともに、財源の多様化により強固な財務基盤が形成され、大学 IR に基づいたリソースの戦略的配分によって戦略的広報、全学的 DX 推進などの業務改革が実現されている。また、国際連携や特色ある教育・研究・社会貢献活動により大学の国際的レピュテーションが向上し、世界大学ランキング 200 位以内にふさわしい環境が実現されている

重要戦略⑩

教職員の意欲と能力を引き出す人事マネジメントシステムの構築とダイバーシティの実現

具体的取り組み

37. 教職員の意欲と能力を引き出す人事マネジメントシステムの構築

多様な教職員がそれぞれの能力を最大限発揮できる多様な働き方を実現するために、各専門分野に応じた評価基準の設定や、透明性のある評価システムの構築など、教職員の業績評価の在り方を検討します。教員の能力開発のための職階に応じた FD の提供、在外研究員派遣制度やサバティカル制度の拡充など、キャリアアップを促進する制度を構築します。教員の教育研究、社会貢献、大学運営における活動を可視化し分析・活用します。職員については、大学職員として求められる人材像により適した評価ができるよう人事評価制度を定期的に見直します。また、体系的な各種研修等を計画・実施するとともに、現行の「総合職」に加え、特定業務に従事する「専門職」を新設し、複線型キャリア制度を導入することによって、職員のモチベーションの向上、人材育成を図り、柔軟かつ効果的に法人・大学・高専の業務を遂行できる職員を育成します。

38. 多様性に配慮した人材育成組織としてのダイバーシティの実現

人種、性別および性自認や出身等の属性による不平等を解消し、各人がそのらしさを発揮する活躍の場を整え、新たな価値を見出すことができる人材育成組織となるよう、差別や人権侵害を防止するための研修、固定観念・アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み・偏見）を打破する啓発活動の実施に積極的に取り組みます。また、研究時間確保等の総合的な支援制度を整備することで、多様性に配慮した次世代リーダーの継続的育成に努めます。

39. 海外ネットワークの強化と外国人教職員の積極採用、およびキャンパスの国際化に向けた事務支援体制の整備

海外卒業生（留学生・ポスドク・海外研究者）の実態を把握するとともに、海外同窓会支部との連携により海外ネットワークの強化を図り、留学生の獲得や海外交流拠点としての活用を目指します。また、外国人教職員の積極採用やゲストプロフェッサー事業^{xx}、外国人研究者宿舎の充実により外国人教員および英語で授業ができる教員の増加を進めます。さらには、職員の外国語対応能力の向上を図るとともに、留学生・外国人研究者に対する事務支援体制の整備を進めます。

重要戦略⑰

社会とともに成長する大学の実現に向けた財源多様化の促進

具体的取り組み

40. 大学の成長を力強く支える財務戦略の策定

大学の種々の研究を通じた社会貢献と成長を支えるための多様な財務基盤を構築するために、財務戦略を策定します。具体的には、企業との包括連携における大型の共同研究契約や受託研究の戦略的推進を行うとともに、寄附金の獲得増加に向けた戦略の策定を行います。また、政府等の大型補助金に積極的に応募するとともに、大学独自基金創設や大学発スタートアップへの投資に向けた現行制度の障壁とその解決方法について政府・自治体との対話を進めます。このような財務戦略・基金戦略を強力に推進するために、財務に関する深い見識をもつ専門人材の登用を目指します。

41. 卒業生ネットワークの強化と新たな大学サポーターの開拓

卒業生、在学生、保護者、教職員等を含めた名簿の整備を進めるとともに、寄附等による大学の諸活動の充実に関する情報発信を強化し、卒業生ネットワークのさらなる強化や新たなサポーターの開拓を進め、既存の基金への直接寄附やふるさと納税等の寄附活動の充実、メンバーシップカード、遺贈、遺言信託など、多様な形による大学の活動への支援の強化を図ります。

42. 社会からの共感に基づく新たな資金獲得の仕組みの導入

大学の活動を通じ社会からの共感を得るとともに、遊休地の活用や資産の有効活用など、新しい形の資金獲得の仕組みの導入について検討します。具体的には、難病の治療法開発など社会的ニーズが高い特定の研究活動のためのクラウドファンディングや、大学の活動に対する企業版ふるさと納税、企業等の冠講座、実験室の貸し出し、外部資金による教員・研究者の雇用など、市民に開かれた大学の活動に対し適正な対価を負担いただく仕組みを推進します。

43. 社会人の学び直しを含む正課・正課外教育のパッケージ化とオープンバッジへの対応

社会人向けの教育プログラム、特にリスキリングについての社会的ニーズに対応した、大学院レベルを含めた履修証明等のプログラム開発や、海外に通用するオープンバッジ（国際標準規格のデジタル資格証明）への対応により、知の拠点としての役割を強化するとともに大学として新たな収入源とすることを目指します。

重要戦略⑩

全学的 DX の推進と大学 IR に基づく大胆な業務改革の展開

具体的取り組み

44. 大学 IR に基づく学内リソースの戦略的投資

教育 IR については、計画的な調査等実施と PDCA サイクルを回すことで、教育の質向上を図ります。研究 IR においては、研究領域を部門ごとに切り分け、最先端研究や基礎研究への戦略的な予算振り分けの在り方について検討します。また経営 IR においては、収益部門・基盤部門・貢献部門に切り分け、短期的投資は収益部門、長期的投資は基盤部門に割り振るなど、限られた大学リソースの戦略的投資により、大学の活動の最大化を図ります。

45. 全学的デジタル化による教育研究活動の抜本的改革

全学的にデジタル化を行い、学生サービス・業務の徹底的なオンライン化、ペーパーレス ICT による業務効率化を行います。情報環境インフラを整備し、VR, AR, MR^{xxi}といったリアルとバーチャルが融合するデジタル技術も含めて時間・空間に依存しない教育研究活動を実現するだけでなく、新たな教育研究上の価値創造を目指します。

46. 全学的 DX による戦略的教育研究活動の推進

スマートキャンパスの実現に向けて、デジタル基盤の整備とともに情報セキュリティや個人情報保護のグローバル対応を進め、データ活用促進に資する倫理的・法的・社会的課題に対応します。また、積極的なデータ活用を進めることでデジタル業務改革を推進し業務の効率化と新たな価値創造を行える組織体制への変革を目指します。

重要戦略⑪

高度研究型大学としての国際的プレゼンス確立

具体的取り組み

47. 大学のレピュテーション強化に向けた戦略的広報活動の展開

大学の国内外におけるレピュテーション強化に向けた、戦略的な広報活動を展開します。具体的には、大学の各種活動状況の国際発信を積極的に行うとともに、国内外の大学や研究者から評価されるよう、国際共同研究者や連携大学の発掘、海外支部の拡充を進めます。さら

には、英語ウェブサイトの充実により入試情報・留学生に対する経済的支援・生活情報等の国際発信を進め、留学生数を増やします。

48. 世界大学ランキング 200 位に値する教育・研究・社会貢献・大学運営の実現

大学ランキングの評価指標を研究、教育、社会貢献、大学運営の実現度の尺度として用い、国際的視野での質の向上を目指します。具体的には、充実した学びの提供と国際的リーダー人材の輩出による教育の質向上や、若手研究者の育成・増大、国際共同研究の推進、研究者交流支援により、研究発信の質と量の向上を目指すとともに、SDGs を通した高いレベルの社会貢献を実現することで、世界標準においても 200 位にふさわしい国際的な高度研究型大学の実現を目指します。

重要戦略⑩

強靱で公正な組織運営体制の構築

具体的取り組み

49. 平常時・緊急時の危機管理システムの構築

平常時の危機事象の発生を防止し、緊急時の危機の拡大を最小限に留めるため、平常時のリスク防止プランと有事における対応マニュアルの整備・見直しを行います。同時に日常的に訓練等を繰り返すことで、組織的な危機管理体制を構築します。これらの取組により、災害や新興感染症等で物理的な活動制限が加わった場合でも大学の教育研究活動を止めない、レジリエントな運営体制を構築します。

50. 公正かつ健全な学術研究活動のための組織的基盤整備

世界に開かれた研究拠点を構築するために多様なパートナーと連携して研究活動のオープン化を進める一方で、これに伴う研究インテグリティの確保、安全保障輸出管理および利益相反マネジメント体制を整備し、各研究者の自律的な研究公正への対応を促進します。また、研究大学にふさわしいコンプライアンス推進のため、対応措置を実施できる体制を適切に運営します。

51. 森之宮キャンパスを中心としたキャンパスマネジメント

森之宮キャンパスの機能を拡充・強化し、他の既存キャンパスとあわせて、大阪都心部の各地区を拠点とする連携型タウンキャンパスを実現し、有機的な連携による複数キャンパス間の効果的な運営を推進する体制を学長のリーダーシップにより整備します。

-
- ⁱ イノベーションアカデミー事業では、産学官民共創リビングラボ機能を大学のすべてのキャンパスに配置しネットワーク型イノベーション・エコシステムの構築を目指します。ここでは、産学官民が共創して社会課題の本質について議論し、組織を越えたステークホルダー連携による課題探求と課題設定を行い、その解決に向けて社会実装を想定したプロジェクトをデザインシマネジメントを行い、リビングラボを利用した実証実験/社会実装を推進することによって、総合知の活用による新社会のデザイン、新しい価値の創造を強力に後押しします。
- ⁱⁱ 第6期科学技術・イノベーション基本計画において提示された用語。社会の諸課題への的確な対応を図るために、あらゆる分野の科学技術に関する知見を総合的に活用することが求められており、多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むことが「総合知」である、と定義されています。ここで多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うことを示しています。また新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保と Well-being の最大化に向けた未来像を描くだけでなく、社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすことを示しています。
- ⁱⁱⁱ <https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/sekai/index.html>
- ^{iv} https://www8.cao.go.jp/cstp/siryu/haihui058/siryu3_insatuyou.pdf
- ^v https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/35704/00346634/2_kousou_7gatsukaitei.pdf
- ^{vi} https://www.upc-osaka.ac.jp/assets/upco_1stmidtermplan_modified220329.pdf
- ^{vii} 産官学にわたる多様な組織が相互に協働、競争を続け、イノベーションを誘発するように働くシステム。
- ^{viii} ここでは、パラダイム横断型教育とは、現代の科学教育に求められている、分野ごとのパラダイム（規範・模範）ではなく、様々なパラダイム内の概念をあえて別のパラダイムに通訳することなく、そのまま保持し、それぞれが直面する世界のコンテクスト（文脈）の中で、それぞれ活用することができることを目指す教育である、と定義している。
- ^{ix} TEC：Technology-based Entrepreneurship Course「イノベーション創出型研究者養成」。産業発展の礎となるイノベーション創出における高度研究人材の必要性、技術経営の基礎事項を企業メンター、企業経営者・研究者・管理職教育者等の講義を通して学ぶカリキュラム。
- ^x Fledge: Fudai-Edge Program。学生、教職員、社会人を対象に、デザイン思考に基づき革新的な事業を企画する方法から新規事業の実現や起業の実践的な知識やノウハウまで、リアルな課題を用いた演習や e-learning、イベント、留学等、アントレプレナーシップの醸成の場を提供するプログラム。
- ^{xi} 得られた研究成果を社会問題解決のために応用、展開すること。
- ^{xii} <https://www5.cao.go.jp/keizai1/2004/ningenryoku/0410houkoku.pdf>
- ^{xiii} IRIS（アイリサー I'm a Researcher In Science）は、女性研究者のロールモデルとして、小・中・高校生に科学の楽しさや面白さを広める活動を行う大阪公立大学の理系女子大学院生チームです。
- ^{xiv} well-being について初めて言及されたのは世界保健機関（WHO）憲章とされ、1947年に採択されたWHO憲章の前文において「健康」を次のように定義しています。「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態（=well-being）にあることをいいます。（日本WHO協会訳）」
- ^{xv} ビジネスとして社会貢献や社会問題の解決を目的としながら、ボランティア等とは異なり事業活動を進め、収益を得ることで持続的に課題解決に取り組むベンチャー企業もしくは非営利団体。
- ^{xvi} テクノロジー、特にITテクノロジーを活用してビジネスを行うベンチャー企業。
- ^{xvii} 企業や大学などがネットワークを形成し、スタートアップを生み出しながら発展していくシステム。
- ^{xviii} パブリックデータからの分析や産官学のネットワーク等、自治体が設置する公立大学のアドバンテージを最大限に活用し、連携を強化し、府市と一体化して大阪の都市課題解決に貢献する、大阪公立大学の新機能。
- ^{xix} ESG: Environment, Social, Governance。
- ^{xx} 様々な分野の第一線で活躍している研究者、かつ教育者として優れた実績を有する人物を世界各国から「ゲストプロフェッサー」として招聘し、滞在期間中（あるいはオンラインにより）、英語での特別講義やセミナー、および学生各自の研究内容に関する個別ディスカッションを実施する事業。
- ^{xxi} Virtual Reality (VR)、Augmented Reality (AR)、Mixed Reality (MR)。